

すべては未来の子供たちのために

# Heart & Smile

【ハート&スマイル】Vol.3 2015 April

FREE



ミャンマーから逃れ、UNHCRの支援を受けている難民の子供たち。

H&Sインタビュー 国連難民親善アスリート・村上雅則さん  
企業の社会貢献活動紹介 アサヒビール株式会社  
国際交流を推進する町 江戸川区清新町



Heart & Smile 第3号 2015年4月15日発行 発行：シダックス総合研究所出版 編集制作：株式会社マダックス

この用紙は無塩漂白パルプと植林木を使用しています。



FREE



SHIDAX

ジェシー (ジャニーズJr.)

Heart & Smile

その思いが、未来を変える。

いまだ社会で、差別がまがいを待てるだろうか。  
夢や希望を、持てるだろうか。  
SHIDAXが、勇気ある人を応援したい。心をよがる思いを、もっと養ってほしい。  
ほとばしるエネルギーを、真実で生きる力に変えてほしい。  
この数万人の思いが世界を変える。

“Heart & Smile 勇気プロジェクト”  
勇気をもって踏み出そうとする思いハートの羽中を待します。  
さあ、今、行動しよう。  
supported by JOYSOUND

おかげさまで、  
エントリー  
80000人  
突破!

SHIDAX Heart & Smile プロジェクトソング  
SMAPが決定!! 「ユーモアしちゃうよ」  
シダックス総合研究所出版(シダックス) 監修・編集・制作(2015年4月15日) 発行(2015年4月15日) 印刷(2015年4月15日)

「Heart & Smile Award」開催中! JOYSOUND 4T  
でSMAP「ユーモアしちゃうよ」を聴いて、  
「Heart & Smile Award」に応募しよう!

SHIDAX

私たちシダックスグループは、生きることを幸福につなげる「人と人の絆」を支え、  
真心を込めて世の中の「大切なこと」を提供しつづける健康創造企業です。

はぐくむ、大切なことのすべて

SHIDAX  
<http://www.shidax.co.jp>



## SMAPが歌う Heart & Smileプロジェクトソング 「ユーモアしちゃうよ」CD発売!



- SMAPによるHeart & Smileプロジェクトソング  
「ユーモアしちゃうよ」のシダックス限定版CDが発売されました。
- レストランカラオケ・シダックス店頭で限定販売しています。
- 「ユーモアしちゃうよ／華屋なる屋敷」¥1,500+税  
→シダックス限定版CD販売1枚につき50円を  
シダックスがUNHCRへ寄付します。

## Heart & Smileメニュー提供による 寄付活動を行いました。



- 1月1日～1月31日の期間、全国のシダックスフードサービスの  
631店舗・施設で「Heart & Smileメニュー」1品を提供しました。
- メニューは1月実施の北海道フェアの献立の一つ「ホワイトスープカレー」。
- 提供1食につき、10円をUNHCRに寄付しました。
- ハウス食品がメニュー開発と寄付にご参加。
- 詳細は以下の通りです。
- 提供店舗：631店舗（フード：291店、SL：340店）
- 提供食数：27,556食
- 寄付金額：275,560円
- ※なお、第2弾は4月を予定しています。



## Heart & Smile 勇気プロジェクト

### 「Heart & Smile 勇気プロジェクト」とは?

不透明な社会環境の中で、世界中の子供たちや若者たちのために  
夢ある笑顔と真心あふれる未来を実現するための  
“一歩踏み出す勇気”を応援するプロジェクトです。

- 主催：シダックス株式会社
- 協賛：株式会社エクシング
- スペシャル・サポーター：ジェシー（ジャニーズJr.）
- 参加店舗：レストランカラオケ・シダックス280店、  
シダックスグループ給食受託店舗（約600店）
- 主旨：本プロジェクトは、社会問題解決と事業活動を融合する  
「ソーシャル・マーケティング」を体現した、  
シダックスグループ初の試みです。
- 株式会社エクシングの協賛のもと、国連UNHCR協会を通じて  
紛争や迫害により故郷を追われた難民への寄付活動や  
社会啓蒙活動など、複数のプロジェクトを展開しています。

Heart & Smileプロジェクト特設サイト  
<http://www.shidax.co.jp/heartandsmile>



## ハート&スマイル

すべては未来の子供たちのために

世界は子供たちの「笑顔」でできている。  
世界中のすべての人  
一人ひとりの心の中には「想い」があります。  
それは、子供への「想い」。親への「想い」。  
パートナーや隣人への「想い」。  
それが真の心——「真心」です。  
未来を担う子供たちの「笑顔」を  
創りたいという「真心」。  
私たちは、そこから世界を変えていくことができる。  
シダックスはこの想いのもと、  
賛同企業とともに  
UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）に協力し  
日本と世界に「笑顔」と「真心」を広める活動を行います。  
それが「Heart & Smileプロジェクト」です。  
そして、この冊子は「真心」を持って  
未来に向かう人々を応援していきます。

### Heart & Smile vol.3 Contents

- 02 Heart & Smile勇気プロジェクト
- 04 Heart & Smileが選ぶ「笑顔の達人」  
国連難民親善アスリート「村上雅則さん」
- 08 UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）活動報告  
UNHCR保護官・阿部奈美さんに聞く南スーダンの状況
- 11 Heart & Smileが選ぶ「笑顔を作る町」  
インドの方と国際交流を進める「東京都江戸川区西葛西」
- 14 社会貢献活動を推進する企業  
「アサヒビール株式会社」
- 16 Heart & Smileが提案する「健康が笑顔を作る」  
エクササイズ／セルフ・リラクゼーション／健康レシピ





# 村上雅則

(野球解説者・国連難民救済アスリート)

奥ゆかしさは今の時代にマッチしない。  
積極的に、継続できる支援活動に参加してほしい。

日本人メジャーリーグ第1号の村上雅則さん。  
ご自身で立ち上げたチャリティ・ゴルフコンペも20回を数え、着実に支援の輪を広げています。  
アスリートがリーダーシップを発揮して社会貢献に邁進する姿に勇気をもらいます。

## 赤野間征盛さんとの出会い。

私が国連UNHCR協会の国連難民救済アスリートに任命されたきっかけは、赤野間征盛さんとの出会いでした。1964年、当時南海ホークスでプレーしていた私は、アメリカへ「野球留学」するため羽田空港に向かいました。そこで偶然出合ったのが、留学するために私と同じ便に乗ってらした赤野間さんでした。赤野間さんとは、その後もお付き合いを続け、私の結婚式では司会もしていたいただきました。赤野間さんは2000年に設立された国連UNHCR協会の初代理事長を務められたのです。

私が主宰するチャリティ・ゴルフコンペにも、赤野間さんには数多く出席していただいています。ここ10年はチャリティからの寄付金の大半を国連UNHCR協会に送らせていただいている関係もあって、2012年に国連難民救済アスリートに任命していただいたのです。

口ヘルトクレメンテ選手から学ぶ。

アメリカ時代には、本場にいろん

な事がありました。その中でも、かけがえない思い出と言えば、ピッツバーグ・バイレーツの口ヘルト・クレメンテ選手との出会いです。クレメンテ選手は、メジャーリーグで首位打者を4度、ゴールドグラブを12度獲得するなど輝かしい成績を残したスーパースターで、オールスターの常連でもありました。グラウンド外では積極的にチャリティ活動に参加し、常に社会への貢献をされていました。しかし、1972年に起きたニカラグア地震の被災地に救援物資を送るため乗った小型機がカリブ海に墜落し、38歳の若さで他界しました。

本業である野球に真摯に取り組むことはもちろん、生涯を通して人のために奉仕する精神を持ち続けた彼が、試合前の短い時間で私に話しかけてくれたときに言ってくれた「君もひとかたの人間になったらボランティア活動をして、人のために尽くせよ」という言葉が、今でも頭に残っています。きっと、彼のこの言葉があったからこそ、後にチャリティ活動を始めようという気持ちが生まれたのだと思います。

スペシャルオリンピックスがきっかけで。

チャリティ活動を実践に始めたいきっかけは、スペシャルオリンピックスとの出会いでした。スペシャルオリンピックスは、知的障害のある人たちに様々なスポーツに参加する機会を提供する国際的な組織です。妻が、元総理大臣夫人の細川佳代子さんに魅惑にしていただいていて、それから、細川さんを初代理事長として1994年に設立されたスペシャルオリンピックス日本の活動に参加させていただきました。

私は、各種競技会に足を運んで参加者と触れ合いながら、彼らがどのような支援を必要としているかを目の当たりにし、多大な支援が必要であることを実感しました。また、知的障害があるからといって、周りの人間が何もかもやってしまってもいけないということにも気付かされました。本人が得意そうなことは、心配がなかったら手を貸す。少しずつでも、できることを増やしてあげることが大切なのです。そして、彼らへの支援は、一時的なものだけでは十

分ではないことも学びました。

そこで、何か長期的に協力できることはないかと思案し、私自身、ゴルフが大好きだったこともあり、年に1度のチャリティ・コンペを開催して寄付を募ろうと決意したのでした。

メジャーリーグデビュー  
30周年の記念の年に。

1994年は、私のメジャーリーグデビュー30周年の記念の年でもありました。当時所属したサンフランシスコ・ジャイアンツが、記念セレモニーを開いてくれるということで、







村上雅則 (Masashi Murakami)

1944年、山梨県生まれ。法政二高卒。1963年、南海ホークスに入団。64年、サンフランシスコジャイアンツ傘下の1Aフレズノ(カリフォルニアリーグ)に野球留学。同リーグでの好成績(のちに同リーグの新人王、ベストナイン)を買われ、シーズン途中の9月1日に5年限定でメジャー(ジャイアンツ)入り。日本人として初のメジャーリーガーとなる。その年は、1勝1セーブ。翌65年には、主にリリーフで45試合に登板、74回1/3を投げて、4勝1敗8セーブ(防御率3.76)奪三振65という抜群の成績を残した。82年に引退。2012年12月、国連UNHCR協会国連難民親善アムバサドール就任。



渡米する準備を始めました。しかし、メジャーリーグ選手会がストライキに入りそうだという話が伝わってきた。いつストになるかわからないのに準備は進められないということになり、やむなく翌年の1995年に延期することになりました。香しくも、1995年は野茂英雄投手がロサンゼルス・ドジャースに入団した年でした。そして偶然にも、私のセレモニーズが行われる8月5日はドジャース戦で、しかも野茂投手が先発する試合だったのです。日本人初のメジャーリーガーの30周年セレモニーズの日に、日本人2人目のメジャーリーガーが先発するといふ運命の巡り合わせには、私もさすがに驚きました。この試合で野茂投手はジャイアンツ打線を相手に1安打完封、あわやノーヒット・ノーランという素晴らしい結果を残すと、日本の報道がヒートアップして、翌日の各スポーツ紙は野茂投手一色。私のセレモニーズの記事は、端の方に小さなスペースを割いて、かろうじて掲載されることになりました。セレモニーズに選んだ日を間違えたか！とも思いましたが、30周年をお祝いしてくださったことに変わりはありませんし、同じく海を渡ってアメリカの野球に挑戦したブレイヤーが、本場のファンを魅了する活躍をしてくれたことは、我がことのように嬉しかったのです。

30周年で大きな節目を迎えたと感じた私は、これを機に世の中に寄付できるようなことをしたいと考え、発起人の方々の後押しもいただいて、身近な存在になっていたスペシャルオリンピックスへの寄付を募る活動を始めました。一時的ではない、継続した支援が大切。早いもので、チャリティ・ゴルフコンペは、昨年の開催で20回を数えました。実に小規模な活動で、これだけ長く続けられるとは思っていませんでしたが、毎回賞品を提供してくださるスポンサーの皆様と、参加してくださる方々のおかげで、知的障害のある人たちの支えのお手伝いが出ています。小さな善意から始まった活動に、更なる善意を乗せて活動の持続にご協力くださる方々に感謝の気持ちでいっぱいです。コンペを20回開催して感じたのは、一時的な支援ではなく、継続して支援し続けることがいかに大切かということです。実際に、国連UNHCR協会でも、都度の寄付と継続的な寄付の両方を募集しています。緊急支援が必要な時、都度の寄付が迅速に集まればすぐにそこに適用できるので大変効果的です。一方、継続的な

寄付は、決まった額の寄付が一定期間得られるという計算が出来るため、中・長期的計画を立てるのに役立ちます。私も、20回のチャリティ・ゴルフコンペを通して、継続することの難しさと大切さを学ばせていただきました。日本では、プロ野球を始めとするスポーツ連盟や団体などが、慈善活動や社会貢献に対してそれほど熱心な活動していません。4年前の東日本大震災でも、考えさせられる出来事がありました。各地に多大な被害を受けた過去に例のない災害に対し、野球界からも様々な支援が行われましたが、被災者の方々に対する寄付を最初に言い出したのは、韓国入選手でした。日本人選手は、それに続いて徐々に寄付を始めたのです。小さな意識が大きな動きへ。

日本では、誰かが率先して行動を起こすと「何だ、出しゃばっていい格好しよう」といふなどと言う人が現れます。そう言われるのが嫌だから、他の顔色を讀んでからようやう行動するという傾向がありますが、日本人が持つ「遠慮がち」な性質は、今の時代にはマッチしていないと思います。積極的にリーダーシップを取らないと、うまくいかないことが多いのではないのでしょうか。私は、日本人のみなさんにもっと積極的に動いてもらいたいと思います。あれだけの災害が自分の国で起きたのであれば、まずは同胞が立ち上がったっていいのではありませんか。特に、プロアスリートは広く顔を知られた存在ですから、率先して行動することで、多くの人を巻き込みながら一大ムーブメントに発展させることができるのです。いきなりやれと言われても、どうしていいかわからないでしようから、直ちに活動を始めるとは難しいと思いますが、少なくともその意識だけでも持つてもらえればと思います。その小さな意識が、やがては大きな動きへとつながるのです。例えば、1万円を寄付する余裕がある時、寄付をしようかと考える一方で「これだけでは誰かを助けるのは難しいな」と思うかもしれません。しかし、その意識が1000人に広がれば、1000万円という大金が集められるのです。小さな意識を地道に広げていくことで、驚くほど大きな動きに変わっていくのです。私の小さな活動が、規模は小さくても誰かのためになっていて、それを継続しているということ、多くの人が知っていただきたい。人の役に立つことは、誰にでもできるのだという事実を伝えられたらと思っています。

Change your Life.  
Change the World.

笑顔の  
達人





©UNHCR  
スーダン、南ダルフールにて。  
UNHCRの難民支援を受けたコン  
ゴ難民および現地政府の担当者。



©UNHCR  
スーダン、南ダルフールにて。アンボロ  
ロという少数部族民族の人権状況を  
調査した際に協力してくれた首長たち。

子供たちの笑顔を目指して、  
UNHCR 活動報告

## 冷静な視点を忘れず、 国内避難民の 自立を支援する。

2013年12月に政府と反政府勢力の新たな衝突が勃発し、国内避難民が大量に発生した南スーダン。首都のジュバにある3万人規模の国内避難民キャンプで、援助活動を行っているUNHCR保護官の阿部泰美さんに、現場からの生の声を聞きました。

3万人規模のキャンプで、  
国内避難民をサポート。

私は現在、南スーダンの首都のジュバという町にあるIDPキャンプで働いています。

IDPというのは、「Internally Displaced Persons」の略で、国内避難民のことを意味します。紛争や宗教、国籍、政治的な意見の相違による迫害などが原因で家を追い出され、国境を越えて逃げている人たちは、難民と呼ばれますが、国内で避難を余儀なくされる人たちは国内避難民（以下IDP）と呼ばれます。

スーダンでは、民族や宗教などの理由で20年以上も内戦が続いて、2011年7月9日に住民投票を経て、南スーダンが独立しました。その後、2013年12月に政府と反政府勢力の新たな衝突が勃発し、大量の難民とIDPが発生。南スーダンには多くのIDPキャンプが生まれました。

南スーダンにはいろいろな民族が存在し、大きく分けると現政府はデイン族、反政府勢力はヌエル族が主体となり、政治的な対立に民族の違いが利用され、紛争の激化を引き起こしています。現在、国内の領土は、政府支配と反政府支配に分かれており、地域に依り、前線は常に移動。和平合意の兆しはまだ見えませんが、身の危険を感じた人々がより安全な場所を求めて避難し、IDPとなってしまうのです。

現在ジュバのIDPキャンプには、約3万人が暮らしています。元々近くの町で暮らしていた人も多く、日中は外出する人も多いのですが、政府軍兵士・警察からのハラスメントや恐喝を受けたという報告が少なからずあります。とくに女性は、買い物を断れいをするために外出した際に、検問などの場所での暴力被害にあたり、地元住民に脅迫されたりと、極めて不安な状況です。私は保護官として、このような人

権侵害が起った状況を把握し、情報を収集・分析した上で、さまざまなチャネルを通し、政府やキャンプの治安維持を担当している国連南スーダンミッション（PKO）に提言することを役割としています。また、人権侵害が起りやすい場所を特定して、モニタリングを実施し、リスクの軽減を目指しています。さらにIDPキャンプ内でも暴力が多発しているのが、報告を受けた場合に必要となるケアができる体制作りや、発生予防のための啓発活動にも取り組んでいます。

こしました。そのような混乱した状況を前にしたとき、私は当事者ではなく第三者として、冷静な視点を失わないよう共感するけれども必要以上に感情移入することなく、目の前のことを解決していくという感じです。緊急援助の現場では、さまざまな悲劇的な状況に遭遇することが少なからずあるので、こういった姿勢を維持することは大切だと感じます。

若者の生活手段を整え、  
問題を根本的に解決したい。

昨年4月頃、ジュバから車で約5時間のところにある、ボーという町のIDPキャンプで働いたことがありました。そこはヌエル族のIDPが約3千人暮らしていましたが、いさかからデイン族の若者にキャンプが襲撃され、約50名のIDPが死亡しました。その後にも襲撃や略奪攻撃があるという噂が流れ、非常に不安で、恐怖を感じる状態となったのですが、そこに残っている人道支援関係者と共に行方不明者を捜したり、死体を回収して埋葬したりという作業を続けました。そのときは、生き残っている人がたくさんいて、その人たちの人生はここで止まるわけではないという思いが、恐怖を跳ねのけてくれたのです。私はこの人々をサポートするためにここにいます。そうやって気持ちを奮い起

キャンプにいていつも勇気づけられるのは、紛争から逃れて着の身で、状況が落ち着いてくると、サバイバルスキルを発揮し、力強く自立しようとして出すことです。どのキャンプでも、具体的な支援がなくても、自然発生的にマーケットができ、町のような状態になります。以前働いていたエチオピアのソマリア難民のキャンプでは、母国で教育を受けた人が率先して、子供や女性に識字教育を始めていた事例も。支援する側も緊急時には余裕がなく、あまり考える時間がないのが現実ですが、キャンプの状況は刻々と変わります。ただ支援を続けられればよいというものではなく、自立の芽が生まれた頃を見計らって、支援の仕方を変えていかなくてはいいと感じています。南スーダンのジュバのIDPキャンプにも若者がたくさんいるのですが、戦や教育の機会を奪われ、また





世界の人々を笑顔にするため  
がんばっている町を紹介します!

笑顔を作る町



## 東京都江戸川区西葛西

インドと町の皆さんが文化交流で、素敵な笑顔に。

江戸川区西葛西地区は、日本に住むインドの方の2割が暮らすという日本で最大のインド人タウンです。ここではたいへん多くの文化交流が行われており、日本とインドの架け橋として大きな役割を担っています。今回は、ボランティア団体F&Sの会による活気溢れる日本語教室と、茶道を通じた文化交流を行っている宗信茶道クラブを訪れました。



©UNHCR

エチオピア、ボコラマ難民キャンプにて、キャンプ内のUNHCRの活動をサポートしているソマリア難民の若者とUNHCR現地職員と。

子供たちの笑顔を目指して。  
UNHCR活動報告

### ご寄付のお願い 特定非営利活動法人 国連UNHCR協会



国連UNHCR協会

UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は1950年に設立された国連の難民支援機関です。紛争や迫害により故郷を追われた難民・避難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に向けて働きかけています。この国連の難民援助活動を支えるため、広報・募金活動を行う公式支援窓口が、国連UNHCR協会です。皆様の温かいご支援を、心よりお願い申し上げます。

ご寄付のお申し込みは  
ウェブサイトからお願いします。

国連 難民 検索

※ご寄付は  
税制優遇の  
対象になり  
ます。

国連UNHCR協会の公式アカウントご案内



阿部幸美 2014-2016

UNHCR保護官。東京都出身。慶應義塾大学法学部(商法専攻)卒業後、法律事務所(企業法務)に勤務。その後、イギリスのエセックス大学大学院に留学し、国際人権法修士号を取得。大学院卒業後、UNHCRケニア・ナイロビ事務所でのインターンシップ、(財)アジア福祉教育財団難民事務本部での勤務を経て、2007年度JPO試験に合格、2008年11月JPOとしてスーダンのジュバへ渡る(現・南スーダン)。その後、フィールド担当官や保護官としてエチオピア、スーダン、南スーダンなどで勤務。2014年6月より現職。

治安悪化を懸念してキャンプ外に思いうように外出できずエネルギーがあまり余っていない、それが暴力や喧嘩、レイプ、飲酒などにつながっているのを感じます。時間を経て状況が落ちついてきたら、IDPがいずれは避難前に住んでいた場所に帰還することも視野に入れながら彼らの生活手段を整える支援を、保護官の活動の一部として、重点的にやっていきたいと思っています。それが性暴力などの問題の解決や、女性・子供のみならずIDP全体の生活状況の向上につながっていくと私は考えています。

エチオピア、ボコラマ難民キャンプにて、ソマリア難民のサッカーチームの練習をするUNHCR現地職員と。



©UNHCR

エチオピア、ボコラマ難民キャンプにて、キャンプにある子供用遊び場に集うソマリア難民の子供たちと。



©UNHCR